

立ち読み

移住したその日から忙しい田舎

私は以前都会に住んでいた。仕事は残業が続きで帰宅は毎日深夜、休日出勤も当たり前。家に帰っても寝るだけ、朝目が覚めたらまた出勤、の繰り返し。見晴らしの良いマンションの18階の部屋をローンで購入したが、そこはただ寝るだけの場所になっていた。

都会暮らしに疲れて病んでしまった私が、ローンで購入したマンションを売り払い、南馬宿村に移住したのは9年前。南馬宿村での生活が都会より遥かに忙しいと知ったのは、移住したその日から。引っ越しの荷物をトラックから降ろそうとしたらいきなり呼び出された。村人が広場に集まり私の自己紹介をする会を準備していたのだ。

立ち読み

生きるか死ぬかの移住者歓迎会

食べ慣れないジビエ料理を半ば強制的に食べさせられ、ジビエ料理はお腹壊すので程々でよいと伝えたら「それなら消毒だ」と、アルコール度数の高い酒を無理やり飲まされた。

立ち読み

プライベートは存在しない

翌日の朝々時、ドアをドンドン激しく叩く音がしたので表に出てみると、軽トラが脱輪したから手伝ってくれと無理やり家から引きずり出された。ほぼ毎日のように夜中や明け方に叩き起こされるとは考えもなかった。

都会では家に帰ればプライベート空間が約束されていたし、年に2回、夏の祭りや街を歩く健康ウォーキングのイベントがあったが、自由参加だった。田舎は毎日のように行事やイベントがあり、事あるごとに「集会だー、集会だー」と、呼び出される。

都会では家に帰ればプライベート空間が約束されていたが、田舎の自宅は出入り自由なので寛ぐことすらできない。突然ドンツとドアが開き勝手に家の中に乗り込んできて「醤油少し分けてくれー」だの、「便所使っぞー」だのとやりたい放題。ここで問題なのは、実際に醤油が欲しいわけでも便所を使いたいわけでは無く、ただ私の家の中の様子を見たいために無理やり用事を作って侵入してくるのだ。これを拒もうなら翌朝には家が真っ黒焦げになってしまっだろう。